

平成17年度事業計画

本会の活動は、会員各位の熱意によって、学術情報などの発信、技術交流、油化学の啓発など多方面で成果を挙げている。平成17年度も各事業計画をさらに充実させ着実に執行して行きたい。論文誌 JOS の発行は学会として最も重要な活動の一つであり、積極的な投稿を促すこれまでの方策のさらなる成果を期待したい。学会と会員を繋ぐ媒体として会誌オレオサイエンスの一層の充実を進める。部会あるいは各支部主催の講演会やセミナー、(財)油脂工業会館の共催を得て開催される地区講演会、フレッシュマンセミナーなどは年を追って充実してきているが、油化学の啓発と併せて会員増強に繋がるものにして行きたい。国際交流に関しては、AOCs との緊密な交流の維持および ISF における責務の積極的な遂行のほか、近隣諸国との関係強化を図る。昨年は Malaysia Palm Oil Board とは共同シンポジウムを開催しているが、本年は Korean Oil Chemists' Society とも交流を図って行きたい。また、17年度年会での English Session に代わる試み、油脂試験法の英語版化、論文投稿の電子メールによる受付、若手の会の活動、財務処理の効率化と経費節約に資するマニュアルの作成、ホームページの充実など会務においても多くの試みがはじめられたがその結実を期待したい。

1 会務

1.1 総会

第51回通常総会を平成17年3月31日、油脂工業会館会議室で開催する。平成16年度事業報告および収支報告、平成17年度事業計画案、収支予算案等を審議し、平成17年度役員を選任等を行う。通常総会終了後、総会報告会および表彰式を開催し、日本油化学会功績賞および平成16年度学会賞等選考結果等について報告し、表彰する。つづいて講演会ならびに懇親会を開催する。

1.2 理事会

平成17年度理事会の開催予定数は5回。平成17年度会長、副会長、常務理事の選任、運営委員長、各業務委員長および支部長等の選任、諸事業計画の企画・実行、平成17年度一般会計・特別会計決算案および平成18年度同予算案の作成等、重要案件について審議し、決定する。

1.3 運営委員会および運営会議

運営委員会の開催予定数は6回。運営会議は運営委員会が開催されない偶数月に少数回開催する。運営委員会および運営会議は、理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の活動方針について議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

総務委員会は、会員アンケートを参考に定款の一部変更や諸規定の見直し、会員名簿のIT化等を行うとともに、ホームページ委員会によるHPの充実をサポートする。財政基盤の健全化は引き続き重要な課題であり、財務委員会、会員増強委員会などと連携して強力に推し進める。企画・部会統括委員会では、専門部会活動や本部事業の一層の推進を図る。国際交流委員会は第6回 JOCs-AOCs ジョイントシンポジウムの開催準備に努力するとともに、新たな国際会議の創設に向けて関係国と協議をつづける。また、年会における韓国油化学会とのジョイントシンポジウムの開催を支援するなど、本会の国際化を推進する。編集委員会は、「JOS」への内外からの投稿増や、インパクトファクターの取得に向けて努める。「オレオサイエンス」は会員に親しまれる会誌づくりに努める。規格試験法委員会は、トランス酸の分析法、基準油脂分析試験法の英文化等について検討する。

2 事業計画案

2.1 本部事業

第6回フレッシュマンセミナーは、「油脂と脂質」については5月に、「界面科学と界面活性剤」については6月に東京理科大学でそれぞれ開催する。また、第5回基準油脂分析試験法セミナーと第3回界面活性剤評価・試験法セミナーをひきつづき開催し、試験法の定着をはかる。さらに、企業の中堅社員向けのセミナーをあらたに企画する。油化学会が編纂・出版した教本の普及に努める。

2.2 支部活動

3支部による講演会、セミナー等は例年に倣って開催する。また、地域ごとの小集団活動の支援について検討する。さらに、支部活動の範囲を拡げるための地区講演会（油脂工業会館共催）は「油脂・脂質の機能と健康」を共通のテーマとして、仙台市（関東支部）、つくば市（関東支部）、松阪市（東海支部）、東広島市（関西支部）および福岡市（関西支部）においてそれぞれ開催する。

2.3 専門部会活動

専門部会は、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会の5部会体制の3年目を迎える。各部会は、新部会長の指導のもとに専門性の追及と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー等の充実と定着化をはかる。独立採算制のもとに、小集団活動的運営のもとに部会の活性化をはかる。

2.4 会誌

学術論文誌「Journal of Oleo Science」と、学術情報を中心とする「オレオサイエンス」を各々12号発行する。「JOS」会員からの積極的な投稿を募り、一層の充実を図る。また、懸案事項であるインパクトファクターの取得に努める。「オレオサイエンス」は会員に親しまれる会誌づくりに努め、抄録の充実、誌面の刷新を行う。なお、本年は中特集号を予定している。

2.5 日本油化学会年会

平成17年度第44回年会は、小山内州一実行委員長（慶應義塾大学）のもと、慶應義塾大学矢上キャンパスにおいて、9月14日（水）-16日（金）に開催する。3日間の会期は初めての試みである。

受賞講演、一般発表（口頭およびポスター）、専門部会主催のシンポジウム・ランチョンセミナー等を行う。イングリッシュセッションはとくに設けず、一般講演の中で英語による発表の時間帯を設けることで一層の国際化をはかる。

2.6 日本油化学会-韓国油化学会ジョイントシンポジウム（JOCs-KOCS・JS）

韓国油化学会とのジョイントシンポジウムを本年度の年会において開催する。招待講演1件、一般講演6件（日本、韓国各3件）を予定しており、招待講演者として盧長淑元韓国油化学会会長を予定している。

2.7 第2回日本国際生命科学協会（ILSI）共催シンポジウム

第2回JOCs-ILSI共催シンポジウムを、平成17年7月1-2日、昭和大学上条講堂で開催する。青山敏明実行委員長（日清オイリオ（株））のもとに実行委員会が組織され、「油脂で創る健康」をテーマに、油脂と界面科学、新特保制度、脂質栄養等についてのシンポジウムが予定されている。

2.8 JOCs-AOCS ジョイントシンポジウム JS2007

JOCs-AOCS ジョイントシンポジウム JS2007 は、2007年5月カナダケック市で開催することになり、JOCs、AOCS および ISF によるジョイントシンポジウムとして開催することになった。高橋是太郎実行委員長（北海道大学）のもとに日本側の実行委員会が組織され、準備が進められている。